

若手アカデミー会議（第24期・第3回）議事録

開催日時：平成30年8月31日（金）13:30-16:00

（会議後、有志による意見交換 16:00-17:30）

開催場所：日本学術会議6-C（1、2、3）会議室

出席者：（敬称略）井頭、井藤、伊藤、岩崎、岩村、遠藤（求）遠藤（良）、大矢根、隠岐、笠井、加藤、川口、川畑、岸村、木村、小堀（Skype）、小森、實藤（Skype）、塩見、新福、住井、田井、大門、高瀬、高槻、武田、谷口、土屋、所、中澤、中村、名取、西嶋、野田、埴淵、林、平田、前川、松中、馬奈木、森、谷内江

【議題】

（一）幹事団からの報告、各分科会からの報告

新福副代表より、資料1-1を用いて、若手アカデミー設立の経緯に関する説明があった。また岸村代表より、資料1-2を用いて、若手アカデミーの現状についての説明および24期中に実現したいことについての表明があった。続いて川口会員より、資料7-2を用いて、「日本の宿題 学術からの提案 2020」の内容について説明があった。

さらに、岸村代表より、資料2-1、資料2-2、資料3-1、および資料3-2を用いて、シンポジウム「博士号所持者に求められること・求めること」、アジア学術会議における若手アカデミー冠セッション（西嶋会員から補足説明あり）、公開シンポジウム「ハラスメントを鏡に、日本社会を検証する—なぜまっとうな議論ができないのか?」、科学と社会委員会におけるSDGs関連の議論、日本学術会議若手アカデミー会員と文科省との意見交換の状況、文科省との連携の強化への展望、若手アカデミーのHPの充実、若手アカデミーの予算状況、学術の動向の出版（新福副代表・谷口会員から補足説明あり）、外部機関との連携、特任連携会員の増員、の各項目に関する報告があった。地方活性化関連で、シチズンサイエンス（12月青森、3月福岡）に加え、「学術による地方活性化支援」に関するシンポジウムを来年1月に福岡で企画する案が出たので、提案書を準備して、後日、全体に諮る予定。

● 各分科会からの報告（分科会役員）

・若手による学術の未来検討分科会

川口同分科会委員長から、タイムマネジメント問題についての取り組みおよび「学術から見た世界」についての議論について報告があった。また、平田同分科会副委員長から、資料4-1を用いて、イノベーションに向けた社会連携分科会との連携で10月27日に開催予定の公開シンポジウム「博士キャリアの可能性—企業が博士に求めること—」についての報告と広報への協力依頼があった。

- ・若手科学者ネットワーク分科会

岩崎同分科会副委員長から、6月4日に開催された第3回若手科学者サミットを開催し、河野暢明博士に若手アカデミー賞が授与されたことの報告があった。また、若手科学者ネットワークアニュアルレポート2017をとりまとめ、若手アカデミーウェブサイト上に掲載したことについての報告があった。

- ・イノベーションに向けた社会連携分科会

高瀬同分科会副委員長から、資料4-2および資料4-3を用いて、7月28日に開催されたシンポジウム「若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会連携」についての報告があった。

- ・国際分科会

新福同分科会委員長副代表から、資料4-4を用いて、24期の活動ロードマップについての報告が、資料4-5を用いてINGSA2018に合わせて11月5日に開催予定のワークショップ「若手研究者のための科学的助言能力構築ワークショップ」についての報告があった。また、西嶋同分科会副委員長から、資料4-6を用いて、12月6日に開催予定の第18回アジア学術会議「科学と社会委員会および若手アカデミー合同セッション」に関する報告があった。

- 今後の若手アカデミーの運営について

岸村代表から今後の若手アカデミーの運営についての意見表明がなされ、議論が行われた。

(二) 科学者委員会、同各分科会での取り組み

- 出席者からの報告

- ・科学者委員会

岸村代表から、資料5-1を用いて、6月18日および8月22日に開催された科学者委員会での議論内容に関する報告があった。

- ・男女共同参画分科会

新福副代表から、資料5-2および資料5-3を用いて、6月14日に開催された男女共同参画分科会での議論内容、特に若手アカデミーが行ったプレゼンテーションに関する議論内容に関する報告があった。また、10月26日に開催予定のシンポジウムについての報告があった。さらに谷口会員から、8月30日に開催された議論内容について補足説明があった。

- ・学術体制分科会

岸村代表から、6月6日に開催された学術体制分科会での大学改革に関する議論内容の報告があった。また平田会員から、次回開催予定の分科会についての紹介があった。

- ・学協会連携分科会

川口会員から、学協会連携分科会での議論に関する報告があった。特に、学協会の法人化に関する問題、学協会の学術会議認定基準、学協会に関するウェブアンケートについて報告がなされた。

・研究計画・研究資金検討分科会

大矢根会員から、資料5-4を用いて、研究計画・研究資金検討分科会の活動について報告があった。また資料5-5を用いて、マスタープラン2020の策定方針案に関する報告があった。

・学術と教育分科会

西嶋会員から、学術と教育分科会の活動について報告があった。具体的には、基礎科学力強化に向けた課題の検討、「参照基準」のフォローアップのとりまとめ、大学院のあり方と研究者養成との関係についての検討、教育に関わる重要課題についての分野横断的検討、のそれぞれの議論について報告があった。

科学者委員会・同分科会での議論の骨子については、現在、世話人＋幹事団だけで即時性の高い情報共有が行われている。これについて、若手アカデミー全体で情報共有を行うことに強い要望があったため、今後、そのようにすることとした。

・地方学術会議 in 京都

新福副代表から、資料6-1および資料6-2を用いて、12月22日に京都で開催予定の地方学術会議、および、その中で若手アカデミーが主催する分科会に関する報告および協力への依頼があった。

(三) その他

(1) 今後の総会の開催計画

岸村代表より、今後の総会の開催計画に関する検討状況について報告があり、今後メールベースで意見聴取および決定をする旨について連絡がなされた。

(2) 文部科学省との意見交換

文部科学省科学技術・学術政策局企画評価課企画官（兼）政策科学推進室長 中澤恵太氏との意見交換が行われた。